

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語  
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



## 生態系を支えるミツバチ減少の危機

「もし、地球上からハチが消えたなら、人間は4年しか生きることができない」これは、アインシュタインが受粉媒体を媒介するミツバチの重要性を警鐘として示した言葉です。本号では、ミツバチが姿を消すと何が変わるのか？その影響や関連する取り組みをご紹介します。

### ミツバチの役割と減少の影響

ミツバチは作物の受粉を助け、食料生産だけでなく生態系そのものを支えています。従って、減少が進むと食料不足や価格高騰を招き、国連「IPBES」によれば、年間最大66兆円の経済損失につながる可能性があります。

### ミツバチ減少の原因

1990年代以降、ミツバチの大量死が世界中で深刻化しています。蜂群崩壊症候群 (CCD) により、北半球では生息数の4分の1が消失したという調査報告もあります。気候変動の影響もありますが、主な原因は農業で、特にネオニコチノイド系農薬の影響が大きく、EUやアメリカでは規制が進んでいます。

### 日本での“ネオニコチノイド系農薬”の動向

#### 2010年～2020年頃

- 日本国内での使用量が増加する。
- 日本は11.8kg/haと中国(13.1)、韓国(12.4)と並んで世界でもトップクラスの使用量である。(2017年実績/情報元：FAO)
- 日本政府が残留基準を一部見直し厳格化したのが、一部では基準が緩和されたものもあり、規制としては不十分な状況である。

#### 2020年代以降

- 自治体レベルでの規制が進むが、依然として広く使用されている。
- 一方有機農業の推進により、ネオニコチノイド系農薬を使わない農法が注目される。
- 市民の関心が高まり、消費者がオーガニック食品を選ぶ動きが広がり、使用農薬への関心が高まりつつある。

### ネオニコチノイド系農薬とは？

ネオニコチノイド系農薬とは、「ニコチン」に似た化学構造を持ち、毒性を弱めて作られた殺虫剤です。

### 日本に広がる「ネオニコフリー」の動き

近年、日本で「ネオニコフリー」(=ネオニコチノイド系農薬を使わない取り組み) が広がりつつあります。農業の影響を懸念する声が高まる中、自治体や企業がさまざまな対策を進めています。その一例を紹介します。

#### ◆自治体の取り組み

一部自治体では、学校給食や公共施設で使用する農産物を「ネオニコフリー」に限定。長野県や神奈川県では、ネオニコチノイド系農薬を使用しない農業を支援しています。

#### ◆企業の取り組み

食品メーカーや飲食品業界では、ネオニコチノイド系農薬を使わない原材料選びが進行。オーガニックブランドや持続可能な農業を推進する企業との連携が加速しています。

### 持続可能な環境の創造

シェルグループでは害虫駆除に留まらず、発生を未然に防ぐ「予防」に重点を置いています。それは薬剤使用量を減らし、環境負荷の軽減を目指しているからです。引き続き私たちにおいてもノンケミカルな選択肢の重要性を広める啓蒙活動にも取り組み、業界を超えて様々な機関とも連携し持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## 国際ホテルレストランショーを終えて

シェル商事は、2025年2月4日～7日に東京ビッグサイトで開催された「HCJ2025・国際ホテルレストランショー」に出展しました。本展示会は、フード・ケータリングショーや厨房設備機器展と同時開催され、4日間の総来場者数は49,334名。出展企業は人手不足対策をはじめとする課題の解決に向けたソリューションを展開しました。

弊社は昨年11月に開催されたビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPOに続き、インバウンドの影響で深刻な懸念が広がるトコジラミへの対策に関するブースを出展し、特化型サービス「トコジラミ」を提案しました。

※「トコジラミ」詳細はこちら⇒<https://ur0.jp/vd5EN>

本展示会は宿泊施設関連の事業者と生の意見を交わす貴重な機会となりました。関心を持たれた方の特徴は下記の通りです。

### ◆ブースご来場者の職種

- 1位 宿泊事業者
- 2位 ホテル向けの卸売企業
- 3位 清掃・メンテナンス・リネン事業者

### ◆ブースご来場時のご相談内容

- 1位 トコジラミ誘引トラップの使用方法、価格について
- 2位 トコジラミの駆除方法について
- 3位 トコジラミの生態について

### ◆展示会後のご相談内容

- ・トコジラミ誘引トラップの導入価格について
- ・現場でのデモンストレーション実施について
- ・展示会出展等での弊社とのコラボレーションについて



本展示会には、トコジラミ対策を提案する企業が複数出展していましたが、「予防から駆除までをトータルでサポートできる体制」を持つ企業は少なく、トコジラミの早期発見を目的とした調査ツールと完全駆除作業の両輪のサービスに大きな関心と期待を持って頂きました。

弊社の予防商材は、対策を実施することでお客様に「安心」を提供し、トコジラミの拡散を予防することで薬剤使用量の軽減化を実現させ、結果として環境配慮にも寄与します。また、緊急の際の駆除施工も経験豊富なスタッフが現場ごとの最善な駆除戦略をご提案します。

シェルグループは、「予防」の重要性を軸に、持続可能な衛生環境の実現に向けて取り組んでいます。今後も、現場の声を反映した製品・サービスを提供し、業界全体の課題解決に貢献してまいりますのでご期待ください。

## 今月のInsect



写真/解説  
中峰 空  
8thCAL技術顧問  
真面目公園昆虫館館長



### ハマダラハルカ

(羽斑春蚊)

ハエ目ハルカ科

学名：Harukia elegans

体長7～10mm。和名は翅に斑模様があり、早春の短い間に現れることに由来。ハルカ科は日本（本州、四国、九州）、ロシア極東、北米西部の3地域にそれぞれ1種ずつ遺存的に分布する。ハルカ科最古の化石は中生代白亜紀の地層から見つかっており、現生種は新生代第三紀に繁栄したグループの生き残りだと考えられている。

## Information

### ● Pick up 展示会情報

#### ビルメンCONNECT

会期：2025年3月4日(火)～3月7日(金)

詳細：<https://messe.nikkei.co.jp/bc/>

### 害蟲展season6開催決定！※8thCAL主催の公募展です

作品公募を開始しました。(2025年2月3日(月)～6月9日(月)17時迄)

公式HP：<https://sites.google.com/8thcal.design/exhibition/>

### ● 「トコジラミ」トピックス情報

「トコジラミ白書2025」リリース！

→ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000023.000082097.html>

予防×駆除サービスの特設サイト「トコジラミ」を設置しています！

→ <https://ur0.jp/vd5EN>

### Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。

